

えいらい

No.43

令和2年4月発行
発行元／一般財団法人永頼会 松山市民病院



〒790-0067 愛媛県松山市大手町2丁目6-5 TEL / 089-943-1151 FAX / 089-947-0026
発行責任者 / 院長 山本祐司 編集 / 松山市民病院広報委員会

就任挨拶

—大変する多様化の波のなかで—

事務長 浅野 光孝



4月1日付で事務長職を拝命いたしました。昭和31年6月創立から数えて、七代目となります。浅学非才の身ではありますが、歴代前任者の方々に恥じる事のないよう、職務を全う致したいと存じます。至らぬ点は多々あるかと思いますが、関係者の皆さまにおかれましては、今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしく願いいたします。

新型コロナウイルスについては、世界規模で甚大な被害が生じており、この原稿を推敲している間にも、状況は刻一刻と変化しています。経済指標をみても、その下落は歴史的ではありますが、バブル崩壊やリーマンショックなどは全く別の様相を呈しています。

私たちの生活も自粛を求められ、気分的に委縮してしまいがちです。しかし、こういったときこそ、既存のシステムにさらに知恵や技術が注がれ、新しい価値観や仕組みも生まれてくると思います。現時点であれこれ論ずることは憚られますが、この春号が皆様方のお手元に届くとき、少しでも見通しが好転していることを願ってやみません。

「働き方改革」をはじめとした、現在、国がすすめている様々な施策については、生産年齢人口の減少と、働き方の多様化への対応として、推進されているものであることは、周知のことと存じます。いざ実務に落とし込むとなると、人件費増や管理の多様化(煩雑化)につながり、経営の根幹にかかわる案件となっています。

医師の働き方改革については、近

年、診療報酬にも大きく影響し、特に今年の改定では明らかに医療資源の集約化を加速させるものであり、単なる法対応ではなく、目的を理解し、個々の医療機関がそれぞれの特性に応じたノウハウの積み上げが必要とされるようです。

今年の病院スローガンは「令和新時代とともに歩む医療」として、キーワードは「治す・支える・癒す・活かす」を掲げています。事務方としては、特に「活かす」に注力したいところです。平成27年に新南棟が完成したのち、平成29年には企業主導型保育事業としての病児保育「アイビー」を開所し、令和となつてからは、本年2月にNASVA(自動車事故対策機構)からの委託病床も稼働が始まりました。必要な情報を職員が皆で「活かす」ことができた結果だと感じます。ひとりひとりが目的意識を持って臨みたいところです。

この春、初期研修医師や看護師をはじめとする新規学卒者を、35名迎え入れることができました。なんとも頼もしい若々しい力です。組織の最大の目的は継続することであり、将来のためにはなくてはならない貴重な人材です。ともに成長していかななくてはなりません。病院事業そのものも多様化・複雑化しています。しかし、古来より分化が進めば、また収斂する力も強まっていくといわれています。困難な局面が続いていますが、地域のために、存在し続けることができるよう、力をあわせて前進したいと思います。



撮影：総務課 / 松長 聡美 (常光寺山に立つ弘法大師像と桜)